

## アフターコロナ②

ラジオ番組で大学の教授が地球が活動期に入って、天災が頻繁に起きるようになったので、コロナと両面に対策しなければならない。百年前の関東大震災の時は、国が避難所を設けたのは二割で他は地域や家族親族が世話をした。今回のコロナにより、日本全体がボランティアを派遣する余力がなくなっているから負傷をしても重傷者を最優先して軽傷は家族や親族、各自で対応するように心構えをしなければならないとコメントしておられました。そうはいつでも、コロナにより、多くの人々がどこにももっていくことのできない怒りと悲しみを抱えながら、愛する家族と会えない。愛する信者と会えない。という経験をされています。これ以上悲しいことはありません。死別ならあきらめがつき、天国の再開の希望により気持ちを切り替えることができる。しかし、コロナだからといって、生きている人と会えないというのは辛い。コロナ憎し。しかし、変わらない天災とコロナに対して変わることができるのは私たちの心です。まさにイエス様もおなじことをおっしゃいました。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」(ヨハネ一五ノ一二、一三)。コロナの第二波が襲って来つつある今日、自分の欲望の為に人を愛するのではなく、イエス様の持つておられる神の愛を持つて人を心から愛して、仕えさせていただきますように。